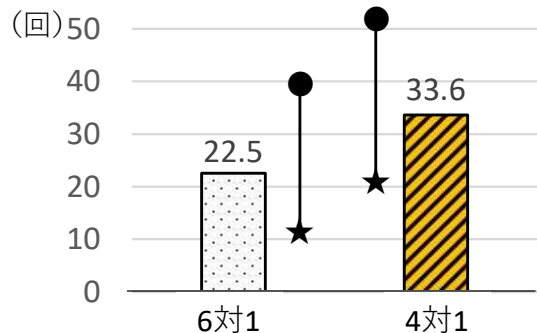


新潟県 1歳児4対1、3対1 実験(2020年+2019年)

新潟県私立保育園・認定こども園連盟
(2020年11月17日)

(1) 2020年データで4対1と6対1を比べると、4対1のほうが子どもに対する言葉がけ数が多い*。



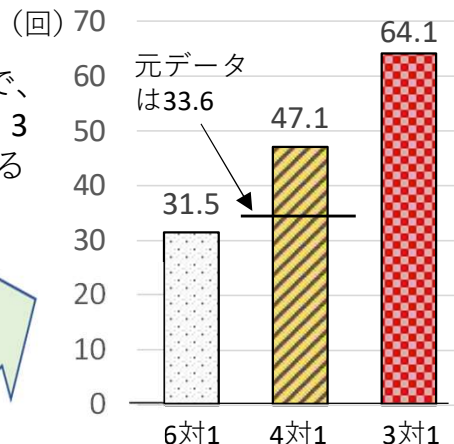
10分間の1人あたり平均言葉がけ数(棒グラフ)と、テーブルで最も多く言葉をかけられた子の平均値(●)と最も少なく言葉をかけられた子の平均値(★)

同じテーブルで最も言葉をかけられた子と最もかけられなかった子の差は、4対1で最大5.8倍、6対1で最大13.3倍。
2019年は、3対1の最大差4.6倍に対して6対1は最大差18.7倍。

昨年も今年も、園は自由参加。参加園で言葉がけが減る要因は、保育上ない。
外的要因として考えられるのは、新型コロナウイルス感染症流行下、職員のマスク着用で生じる話しづらさ。

(3) 補正後の値で、6対1、4対1、3対1を比較すると...

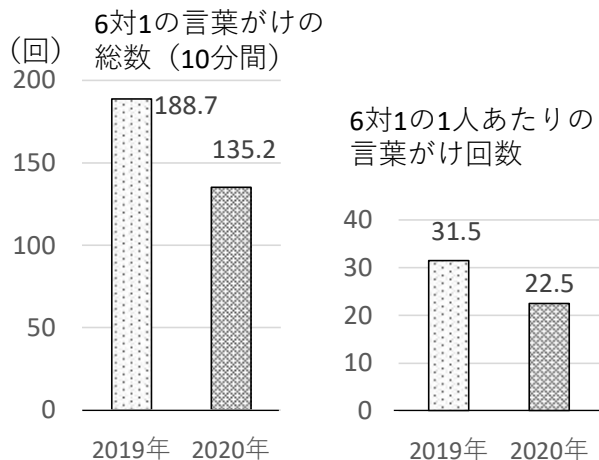
2020年の4対1のデータに1.4をかけて補正。6対1に1.4をかければ2019年と同じ値に。



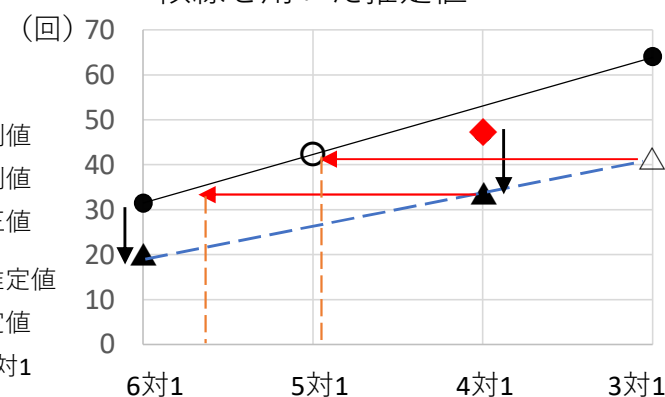
★3対1は4対1よりも、子どもに対する言葉がけが多い*。補正值は元データよりも多いにもかかわらず。

(この資料の中についている*印の差はすべて、統計学的に有意。つまり、差は「偶然」によるものではなく、理由がある差だという意味)

(2) 3対1(2019年)と4対1(2020年)を比べるとには、両年の6対1に差がないことが前提。ところが、2020年の6対1の言葉がけは2019年の7割と、かなり低い*。



(4) 実測データ、補正值、及び、近似線を用いた推定値



● : 2019年実測値
▲ : 2020年実測値
◆ : 2020年補正值
○ : 5対1の推定値
△ : 2020年の3対1

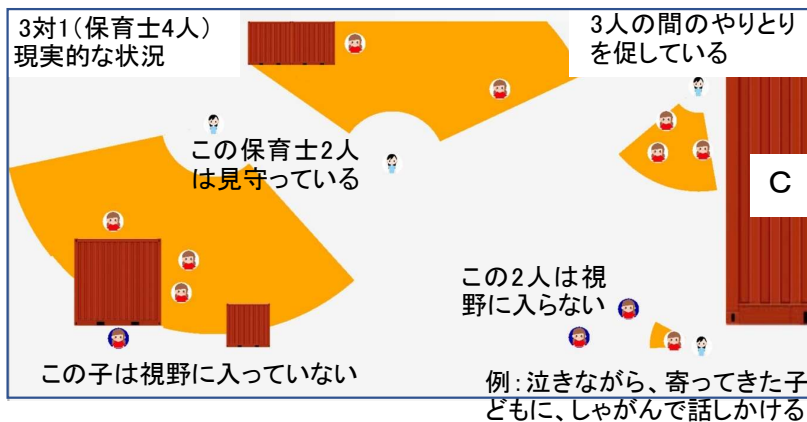
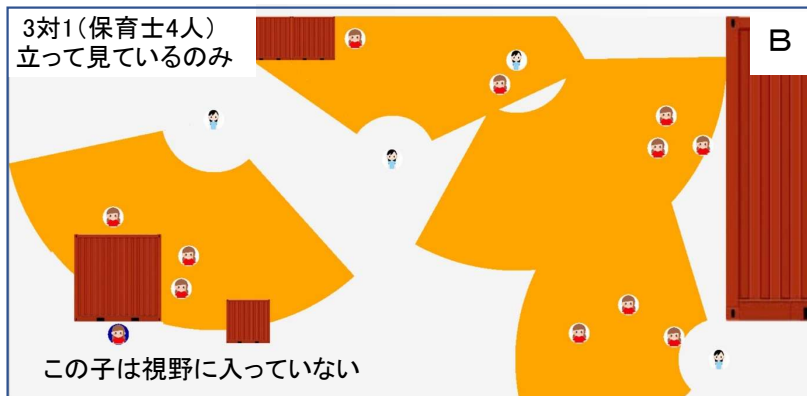
・2020年は、なんらかの理由で保育者の言葉がけが2019年の7割に減少した(仮説:職員のマスク着用による話しづらさ)。3対1の新潟県であっても、実質5対1程度という言葉がけしかできていないことになる(図中の△)。実験は自由参加であることを考えると、同様の減少は全国で起きている可能性がある。

・この減少がないと仮定して値を補正しても、4対1は3対1よりも統計学的有意に言葉がけが少ない。

・1歳児は成長・発達の個人差が大きく、食物等による誤嚥窒息のリスクも高く、また、脳発達上もきわめて重要な時期である。保育施設で過ごす時間が非常に長い現状では、この集団の保育を薄くすることに利はない。

★詳細はPDF上でクリック→ https://kodomoinfo.org/others_main.html

新潟県 1歳児4対1、3対1 実験(2020年+2019年)

新潟県私立保育園・認定こども園連盟
(2020年11月17日)

「注意を向け続ける」が脳にとって非常に困難であることは、認知科学や脳科学から明らかである。自分の関心でのみ動く1歳児クラスを見守ることはさらに難しく、まず物理的に「おとなの視野で覆いきれる」ことが第一歩となる。そこで、このシミュレーション・ソフトを製作し、視野の「見える化」を可能にした。

子どもを「常に監視すること」は本来、保育者の仕事ではなく、子どもが見張られている必要もない。しかし、すり傷でさえ、「職員が見ていなかった」と責められる場合がある現状では、最低限、視野で覆いきれる人数を充足することが職員の心と仕事を守るために不可欠となる。

(以下、報告書の一部)

このソフトでは、保育者の位置と数(～10人)、子どもの位置と数(～30人)、視野の広さ、視野障害物を自由に設定できる(本報告書では1歳児の配置のみ検討)。状況Aは、国基準(6対1)でなるべく広く見える立ち位置にいる。当然、全員を視野で覆うことはできない。状況Bは3対1で、全体ができる限り見える設定である。この場合、ほぼ全員の子どもの視野に入る。しかし、これはただ「見ている」だけで、子どもとの関わりはない。子どもと関わる、転ぶ、ぶつかる等のできごとが起きた時には、状況Cのように視野は狭くなる。

視野を見ただけでも、1歳児クラスと関わり、安全を確保するためには3対1でも困難であることは明白である。

実験に参加した保育者から得られたアンケート結果から抜粋

アンケートでは6対1、および4対1(2020年)または3対1(2019年)について4つの尺度で尋ねた。両年は参加者が異なるにもかかわらず、6対1に関する4つの尺度の回答には違い(統計学的有意差)が見られなかった。一方、3対1と4対1では4尺度とも回答に違い(有意差)が見られた(尺度を1つ示す)。4対1のほうが3対1よりも課題が大きいという結果であった。また、6対1の両年の回答に差が見られないことから、2020年で言葉がけが減った原因は、保育そのものや子どもではないと推測される。

子どもたちにまんべんなくかかわれたと思う

2019年 4.5

2020年 4.9

子どもたちにまんべんなくかかわれなかったと思う

子どもたちにまんべんなくかかわれたと思う

2019年 1.5

2020年 3.3

子どもたちにまんべんなくかかわれなかったと思う